

けれど、それは唯一の方法とは限らない。



人は世界を理解しようと  
し、  
そこに多くの物を創り出す。



### SOUNDSCAPE

「サウンドスケープ」のコンセプトは、美術館間の移動空間を、単なる通過領域から独立した意味的環境へと再解釈することを提案します。これは単なる連結経路ではなく、遊び、休息、交流、学びといったシナリオが連続的に展開される場です。建築的解決は、聴覚的体験を通じた認識への移行が行われる「緩衝地帯」を形成します。

耳を澄ませば、その声を聞き分けられる。



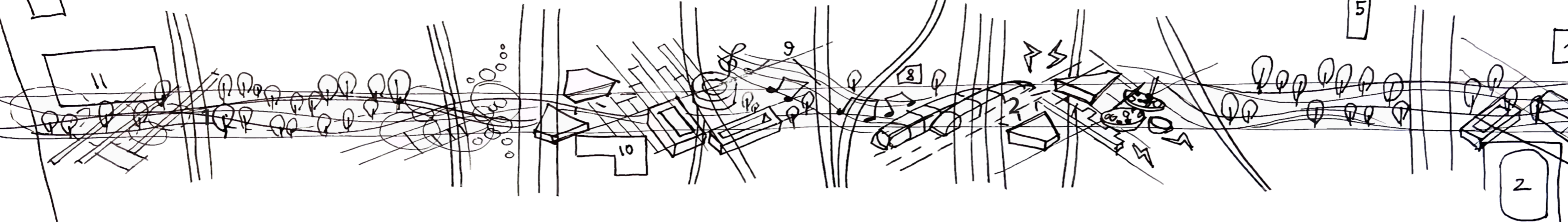
そして、ふと気づく。自分を取り巻く人々の声にも。



自然には、そのままに多くの物語がある。

音を通して、世界は私たちに語りかける。

それらは、新鮮な心で向き合う日常の中でこそ、語りかけてくる。

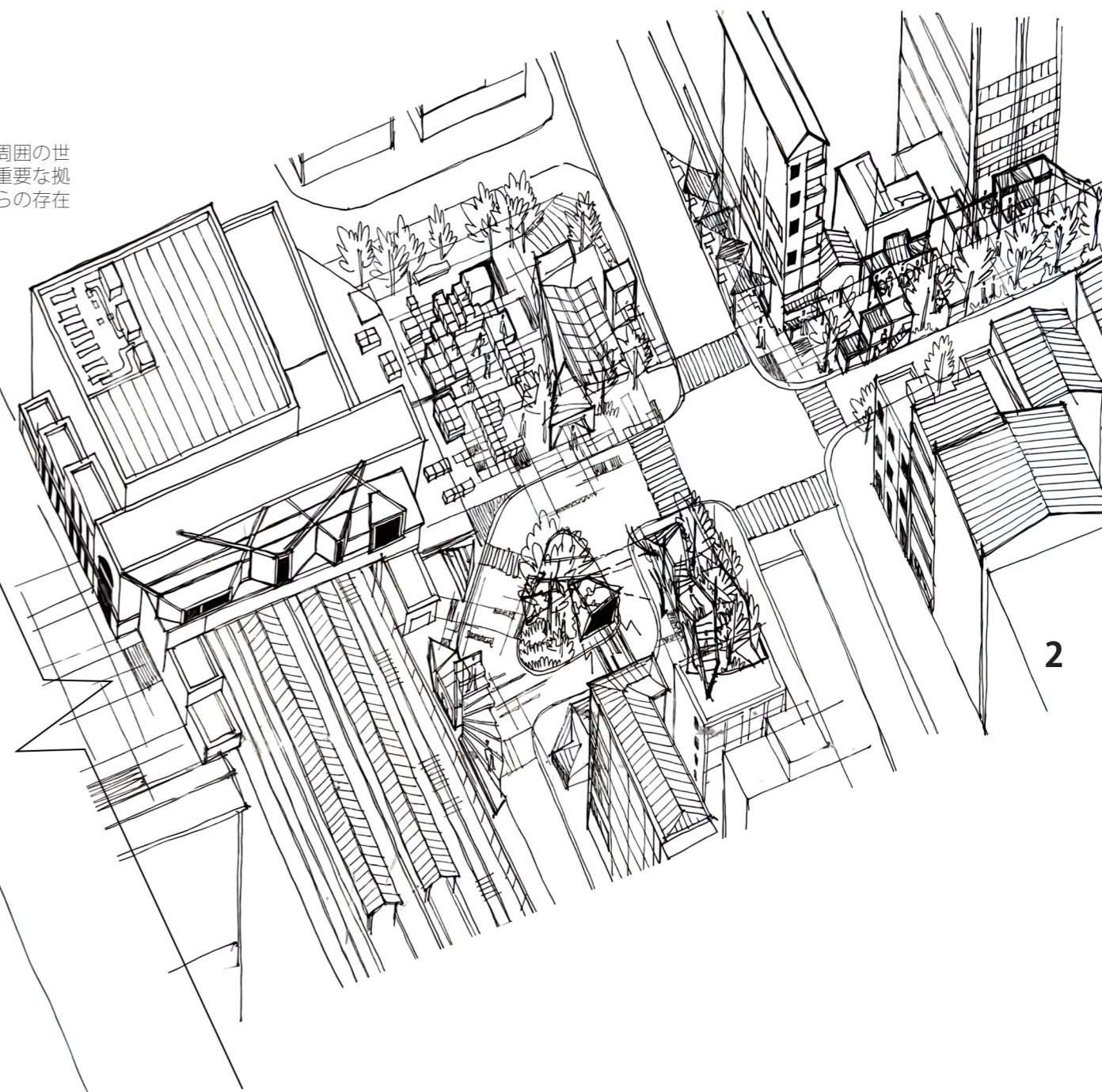
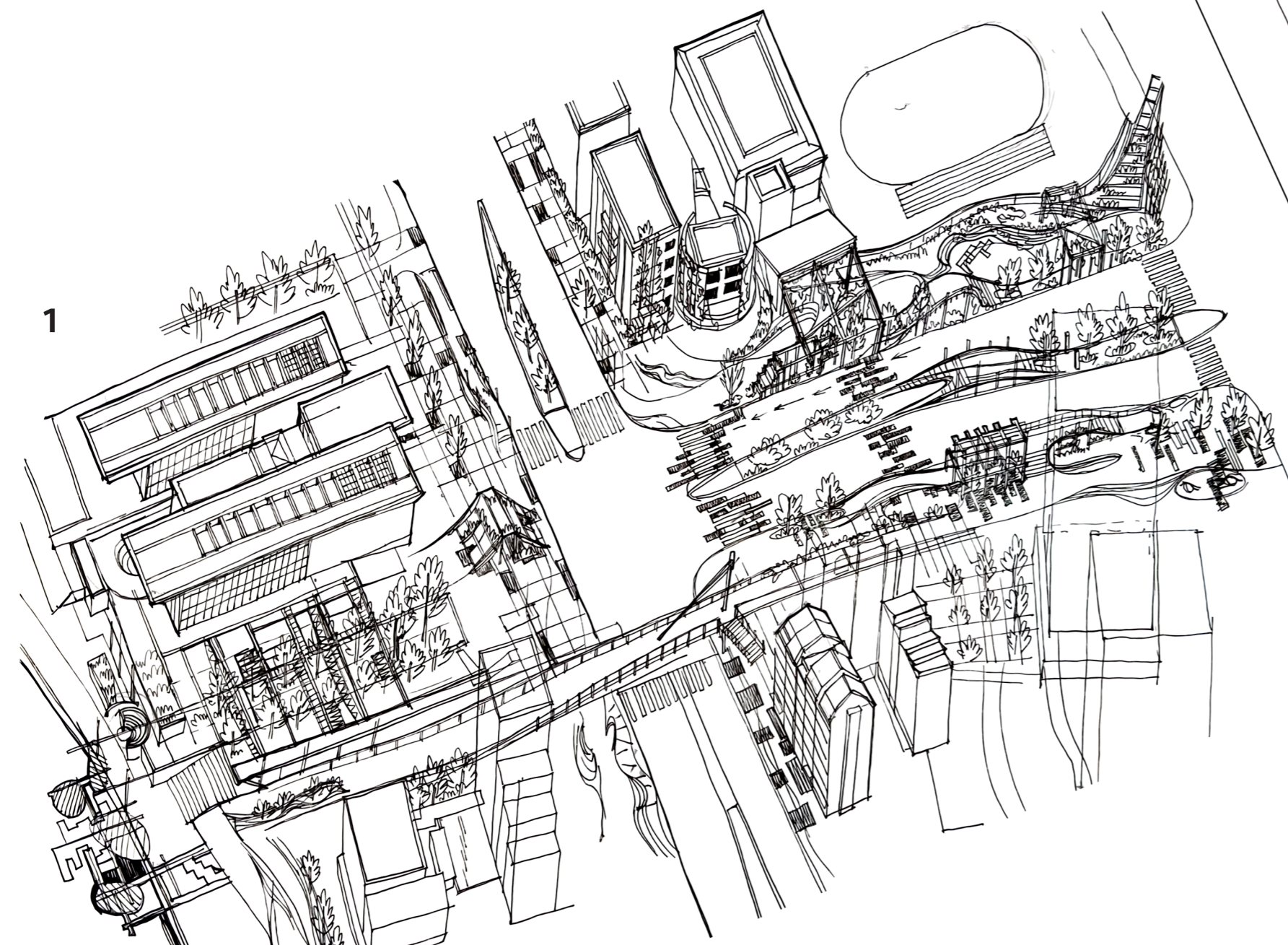


1:王子動物園 2:関西学院大学新キャンパス建設予定地 3:神戸文学館 4:横尾忠則現代美術館 5:兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー 6:灘駅前拱橋 7:JR 灘駅北駅前広場 8:JR 灘駅南駅前広場 9:臨港鉄道跡地 10:BB プラザ美術館 11:兵庫県立美術館 12:シスメックス神戸アイスキャンパス 13:HAT 神戸なぎさ公園

このルートは、没入型のサウンドスケープとして設計されており、自然の音（葉ずれ、水の流れ）、都市の響き（車の音、レストランの喧噪、祭りの賑わい）、そしてインスタレーションの音響が、鑑賞したも

の理解を深める導きとなります。空間は主張するのではなく示唆に富み、知識を直感的に消化するための「間」を提供したり、鮮烈な音で驚かせたりします。素材の触感、リズムの変化、音響的焦点、

静寂領域を通して、この道は人を周囲の世界との接触へと導き、ルート上の重要な拠点を結びつけ、それらの意味を自らの存在で補充していくのです。



「サウンドスケープ」の通りは、都市の文化的ランドマークとして、新たな磁場を形成します。地元住民と通りの施設で働く人々による持続的なコミュニティを生み出し、現代アートとその新たな創造・解釈

の手法に関心を持つ人々を惹きつけます。これは単なる機能的な経路を超え、音響体験を通じたアートの創造と考察のための実験的プラットフォームとして、独立した文化的現象へと昇華するのです。

